



十月九日第五十八回連絡會議

米岡答ニ對スル帝國ノ態度等ニ關スル件

午後三時ヨリ約一時間兩統帥部情報部長ヨリ情勢判斷ニ關スル説明アリタル後連絡會議ニ移リ、外相及寺崎阿米利加局長ヨリ米岡答ニ關スル主トシテ外務省ノ情報ヲ開陳シ、之ニ對シ若干ノ論議アリタルモ何等結論ニ至ラスシテ散會セリ

マ外相 米岡答中判然タラサル所三點ニ關シ、七日野村大使宛僅

促センモ未タ返事ナキヲ以テ、本九日朝九時野村ト電話

連絡シ催促セル所、明朝九時（日本時間九日午後九時）

「ハル」ト會見シ之カ返事ヲモラフ約東トノコトナリ。

故ニ此ノ返事ヲ待ツテ成ルヘク早ク御相談申上ケル

志謀總長 米ニ對スル問題ハ統帥ノ見地ヨリセハ十月十五日ヨリ選
クナルコトハ困ル。此ノ期日ノ範圍内ニテ話ヲ進メルナ
レハ成ルヘク早クヤツテモライ匪イ。明日返事カ來ルナ
レハ直ク連絡會議ヲ開イテハ如何(期日ノミ違ヘ内容ニ
ハ別レス)

軍令部總長ハ左記手記ヲ述ヘントセシモ及川海相ニ止メラレ、會
議後外相ニ之ヲ披見セシメタリ。外相ハ之ニウナヅキ居レリ
ノ交渉ヲ延ハサレルト作戰上困ル

ニ交渉ヤルナラハ必成ノ信念テヤレ。途中テ行キツマリ自分ニ持
ツテ來テモ受ケラレヌ。今後此ノ信念ナク試行^行ヲヤルコトハ今
日ノ場合ニアラス

三寺崎阿米利加局長ト「グルー」並「ドーマン」トノ私的會談ノ要旨
(1)「グルー」ハ頗ル用心深ク且責任ナシト云フ前提ニテ左記ノ如
ク述ヘタリ

自分モ「ドーマン」モ米國ハ話ヲ進メ度キ意見ト考フ。覺書中
ノ重要點ハ(1)支那及佛印ノ駐兵問題(2)南西太平洋ノ經濟問題(3)
日本ノ支那ニ關スル近接關係ヨリスル有利地位ノ三點ト思考ス
又撤兵ニ就テハ撤兵ノ意志表示ヲセヨト云フノカ、現實ニ撤兵
セヨト云フノカ等ノ解釋ニ就テハ極限ヲ有セス。大統領自ラヤ
リタル問題ナルカ故ニ本國ト直接交渉セラレ度(トテ深入ヲ避
ク)

自分個人ノ考テハ覺書ノ撤兵ハ日本ノ締約及之カ實現兩方ヲ阻

ムモノカト考ヘラル

(2) 「ドーマン」ノ述ヘタル所左ノ如シ

覺書ノ重要點ハ「グルー」ノ述ヘタル外ニ「自衛權」カアル。
撤兵ニ關シ現實カ確約ト云フコトハ「ア」ノ文章テハ不明ナリ
唯支那ノ撤兵ヨリモ佛印ニ對スル日本ノ態度カ問題テアル。佛
印ノ家庭ヲ占領シ、第三國人ヲ逮捕シ、恰モ日本國同様ニ行動
シ國際上違反行爲ヲナシツツアリ。日本軍ノ佛印ニ於ケル處置
ハ今後ノ日米交渉ノ進展ニ大ナル阻害アリト思フ。勞澤大使カ
行クカラ緩和サレルト思フカ兎ニ角日本ノ行動ハヒドイ
自衛權問題ニ就テハ歐洲戰ニ參加スルノカ自衛權ナリト考ヘテ
モライ度

三、佛印ニ於ケル日本軍ノ態度ニ關シ

外相

七日「アンリー」ト會見セル所、本國政府ノ訓令ニ基ク

トテ別紙ノ如キ抗議ヲ提出シ、日本軍ノ行動ニ關シ據レ
述ヘタルヲ以テ然ルヘク應酬シオケリ

兩局長

本件ニ關シテハ出先軍ニハ充分注意セラレアリテ心配ナシ

又抗議中ノ人口調査ナトハ共同防衛ノ見地ヨリ是非ヤラ
ネハナラヌモノナリ

外相

此ノ様ナ事カ續發セハ障礙カ起ルカラ御注意願ヒ度

「ビヤストル」六千五百万圓ノ要求ニ方リ、外務當局ヨ
リハ先方ニ對シ南佛ノ飛行場倉庫建物等所要ノモノト説
明セルニ、林中佐カ五万ノ兵力カ北佛ニ入ルト述ヘタ事

等ハ外交上不具合ナリ

參謀總長

南佛ニハ兵ハ入ラス、昆明ニ向フ爲北佛ニ多敵ノ軍カ入
ルト云フ様ニ宣傳セルモノナリ

十月十二日五相會議（近衛、豊田、東條、及川、鈴木）

陸軍大臣説明ス

豊田

日米交渉妥結ノ余地アリ、ソレハ陸兵問題ニ多少ノアヤツ
ツケルト見込カアルト思フ、妥結ノ妨害ハ北佛ノ兵力増加
ハ妥結ノ妨害ヲシテル之ヲ止メレハ妥結ノ余地アル

近衛

九月六日ノ日本側提案ト九月二十日ノ提案トノ間ニハ相當
ノ間キカアル、米側カ誤解シテ層ルニアラスヤト思ハル、
之ヲ檢討セハ妥結ノ道アラム

東條

判断ハ妥結ノ見込ナシト思フ、凡ソ交渉ハ互譲ノ精神カナ
ケレハ成立スルモノテナイ、日本ハ今日進歩ニ譲歩シ四
原則モ主義トシテハ之ヲ認メタリ、然ルニ米ノ現在ノ態度

